



注釈の操作

Data Infrastructure Insights

NetApp
February 11, 2026

目次

| | |
|--------------------|---|
| 注釈の操作 | 1 |
| 注釈の定義 | 1 |
| デフォルトの注釈タイプ | 1 |
| カスタム注釈の作成 | 2 |
| 注釈の使用 | 4 |
| 注釈の定義 | 4 |
| アセットに手動で注釈を割り当てる | 5 |
| 注釈ルールを使用して注釈を割り当てる | 5 |
| アノテーション ルールの作成 | 6 |
| 注釈ルールの変更 | 7 |
| ルールの順序の変更 | 7 |
| アノテーション ルールの削除 | 8 |
| 注釈のインポート | 8 |
| インポート | 8 |
| .CSVファイル形式 | 9 |
| インポート動作 | 9 |

注釈の操作

注釈の定義

企業の要件に合わせてデータを追跡するためにData Infrastructure Insightsをカスタマイズする場合、注釈と呼ばれる特殊なメモを定義し、それを資産に割り当てることができます。

資産の耐用年数、データセンター、建物の場所、ストレージ層、ボリューム サービス レベルなどの情報を資産に注釈として割り当てることができます。

注釈を使用して環境を監視するには、次の高レベルのタスクが含まれます。

- すべての注釈タイプの定義を作成または編集します。
- アセット ページを表示し、各アセットを 1 つ以上の注釈に関連付けます。

たとえば、資産がリースされており、そのリースが 2 か月以内に期限切れになる場合は、資産に耐用年数終了の注釈を適用することが考えられます。これにより、他の人がその資産を長期間使用することを防ぐことができます。

- 同じタイプの複数のアセットに注釈を自動的に適用するためのルールを作成します。
- 注釈によってアセットをフィルタリングします。

デフォルトの注釈タイプ

Data Infrastructure Insightsには、いくつかのデフォルトの注釈タイプが用意されています。これらの注釈は、データをフィルタリングまたはグループ化するために使用できます。

次のようなデフォルトの注釈タイプにアセットを関連付けることができます。

- 資産のライフサイクル（誕生日、終了、使用終了など）
- データセンター、建物、フロアなどのデバイスの位置情報
- 資産の分類（品質（階層）、接続デバイス（スイッチレベル）、サービスレベルなど）
- ステータス（ホット（高使用率）など）

次の表は、Data Infrastructure Insightsが提供する注釈タイプを示しています。

| 注釈の種類 | 説明 | タイプ |
|---------------------|---|-------|
| エイリアス | リソースのユーザーフレンドリーな名前 | 文章 |
| コンピューティング リソース グループ | ホストおよび VM ファイルシステム データ コレクターによって使用されるグループ割り当て | リスト |
| データセンター | 物理的な場所 | リスト |
| ホット | 定期的に頻繁に使用されるデバイス、または容量の限界に達しているデバイス | ブーリアン |

| メモ | リソースに関連付けられたコメント | テスト |
|----------|--|-----|
| サービス レベル | リソースに割り当てることができる、サポートされているサービス レベルのセット。内部ボリューム、qtree、ボリュームの順序付けられたオプション リストを提供します。サービス レベルを編集して、さまざまなレベルのパフォーマンス ポリシーを設定します。 | リスト |
| 日没 | このしきい値を超えると、そのデバイスに新しい割り当てを行うことができなくなります。計画された移行やその他の保留中のネットワーク変更役に立ちます。 | 日付 |
| スイッチレベル | スイッチのカテゴリを設定するための定義済みオプション。通常、これらの指定はデバイスの寿命の間は保持されますが、編集することもできます。スイッチのみ使用可能です。 | リスト |
| 階層 | 環境内でさまざまなレベルのサービスを定義するために使用できます。ティアでは、必要な速度などのレベルのタイプを定義できます (たとえば、ゴールドまたはシルバー)。この機能は、内部ボリューム、qtree、ストレージ アレイ、ストレージ プール、およびボリュームでのみ使用できます。 | リスト |
| 違反の重大度 | 違反 (ホスト ポートの欠落や冗長性の欠落など) の重要度の最高から最低の階層でのランク (たとえば、メジャー)。 | リスト |



エイリアス、データ センター、ホット、サービス レベル、サンセット、スイッチ レベル、層、違反の重大度はシステム レベルの注釈であり、削除または名前変更はできません。変更できるのは割り当てられた値のみです。

カスタム注釈の作成

注釈を使用すると、ビジネスニーズに合ったカスタムのビジネス固有のデータをアセットに追加できます。Data Infrastructure Insightsでは一連のデフォルトの注釈が提供されますが、他の方法でデータを表示したい場合もあります。カスタム注釈のデータは、ストレージの製造元、ボリューム数、パフォーマンス統計など、すでに収集されているデバイス データを補足します。注釈を使用して追加したデータは、Data Infrastructure Insightsによって検出されません。

手順

1. Data Infrastructure Insights サイト メニューで、管理 > 注釈 をクリックします。

「注釈」 ページには注釈のリストが表示されます。

2. ***+追加*** をクリック
3. 注釈の ***名前*** と ***説明*** を入力します。

これらのフィールドには最大 255 文字を入力できます。

4. ***タイプ*** をクリックし、この注釈で許可されるデータのタイプを表す次のオプションのいずれかを選択します。

注釈の種類

- **ブール値:** はい/いいえの選択肢を持つドロップダウンリストを作成します。例えば、「直接接続」という注釈はブール値です。
- **日付:** 日付を保持するフィールドを作成します。たとえば、注釈を日付にする場合は、これを選択します。
- **リスト:** 次のいずれかを作成します。

- **ドロップダウン固定リスト**

他のユーザーがデバイス上でこの注釈タイプを割り当てている場合、リストにさらに値を追加することはできません。

- **ドロップダウンの柔軟なリスト**

このリストを作成するときに [オンザフライで新しい値を追加する] オプションを選択すると、他のユーザーがデバイスでこの注釈タイプを割り当てるときに、リストにさらに値を追加できます。

- **数値:** 注釈を割り当てるユーザーが数値を入力できるフィールドを作成します。たとえば、注釈タイプが「階」の場合、ユーザーは「数値」の値タイプを選択し、階数を入力できます。
- **テキスト:** 自由形式のテキストを入力できるフィールドを作成します。たとえば、注釈タイプとして「言語」を入力し、値タイプとして「テキスト」を選択し、値として言語を入力します。



タイプを設定して変更を保存した後は、注釈のタイプを変更することはできません。タイプを変更する必要がある場合は、注釈を削除して新しい注釈を作成する必要があります。

1. 注釈タイプとしてリストを選択した場合は、次の操作を行います。

- a. アセット ページ上で注釈に値を追加して柔軟なリストを作成できるようにするには、[新しい値を即座に追加] を選択します。

たとえば、アセット ページにいて、そのアセットに Detroit、Tampa、Boston という値を持つ City 注釈が付いているとします。*オンザフライで新しい値を追加*オプションを選択した場合は、注釈ページに移動して値を追加するのではなく、アセット ページで直接、サンフランシスコやシカゴなどの都市に値を追加できます。このオプションを選択しないと、注釈を適用するときに新しい注釈値を追加できず、固定リストが作成されます。

- b. *値*フィールドと*説明*フィールドに値と説明を入力します。
- c. 追加の値を追加するには、[追加] をクリックします。
- d. 値を削除するには、ゴミ箱アイコンをクリックします。

2. *保存*をクリックします

注釈は「注釈」ページのリストに表示されます。

ブール注釈に関する注意

ブール型注釈でフィルタリングする場合、フィルタリング対象となる次の値が表示されることがあります。

- **任意:** 「はい」、「いいえ」に設定された結果、またはまったく設定されていない結果を含む、すべての結果が返されます。
- **はい:** 「はい」の結果のみを返します。DII では、ほとんどの表で「はい」にチェックマークが表示される

ことに注意してください。値は「True」、「On」などに設定できます。DII はこれらすべてを「Yes」として扱います。

- いいえ: 「いいえ」の結果のみを返します。DII では、ほとんどの表で「いいえ」が「X」として表示されることに注意してください。値は「False」、「Off」などに設定できますが、DII はこれらすべてを「No」として扱います。
- なし: アノテーションがまったく設定されていない結果のみを返します。「Null」値とも呼ばれます。

終了後の操作

UI では、注釈はすぐに使用できるようになります。

注釈の使用

注釈を作成し、監視する資産に割り当てます。注釈は、物理的な場所、耐用年数、ストレージ層、ボリューム サービス レベルなど、資産に関する情報を提供するメモです。

注釈の定義

注釈を使用すると、ビジネスニーズに合ったカスタムのビジネス固有のデータをアセットに追加できます。Data Infrastructure Insightsでは、資産のライフ サイクル (誕生日または寿命)、建物またはデータ センターの場所、階層などの一連のデフォルトの注釈が提供されますが、他の方法でデータを表示することが必要になる場合があります。

カスタム注釈のデータは、スイッチの製造元、ポート数、パフォーマンス統計など、すでに収集されているデバイス データを補足します。注釈を使用して追加したデータは、Data Infrastructure Insightsによって検出されません。

開始する前に

- 環境データを関連付ける必要がある業界用語をリストします。
- 環境データを関連付ける必要がある企業用語をリストします。
- 使用できる可能性のあるデフォルトの注釈タイプを特定します。
- 作成する必要があるカスタム注釈を特定します。注釈をアセットに割り当てる前に、注釈を作成する必要があります。

注釈を作成するには、次の手順に従います。

手順

1. Data Infrastructure Insightsサイト メニューで、オブザーバビリティ > エンリッチ > アノテーション をクリックします。
2. 新しい注釈を作成するには、[+ 注釈] をクリックします。
3. 新しい注釈の名前、説明、およびタイプを入力します。

たとえば、データセンター 4 内の資産の物理的な場所を定義するテキスト注釈を作成するには、次のように入力します。

- 「場所」などの注釈の名前を入力します
- 「物理的な場所はデータセンター4です」など、注釈が説明している内容の説明を入力します。

- 「テキスト」など、注釈の「タイプ」を入力します。

アセットに手動で注釈を割り当てる

アセットに注釈を割り当てると、ビジネスに関連した方法でアセットを並べ替え、グループ化し、レポートすることができます。注釈ルールを使用して特定のタイプのアセットに注釈を自動的に割り当てることができますが、アセット ページを使用して個々のアセットに注釈を割り当てることもできます。

開始する前に

- 割り当てる注釈を作成しておく必要があります。

手順

1. Data Infrastructure Insights環境にログインします。
2. 注釈を適用するアセットを見つけます。
 - クエリを実行したり、ダッシュボード ウィジェットから選択したり、検索したりして、アセットを見つけることができます。必要なアセットが見つかったら、リンクをクリックしてアセットのランディング ページを開きます。
3. アセット ページの [ユーザー データ] セクションで、[+ 注釈] をクリックします。
4. [注釈の追加] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. リストから注釈を選択します。
6. [値] をクリックし、選択した注釈の種類に応じて次のいずれかを実行します。
 - 注釈タイプがリスト、日付、またはブール値の場合は、リストから値を選択します。
 - 注釈タイプがテキストの場合は、値を入力します。
7. *保存*をクリックします。

注釈を割り当てた後にその値を変更する場合は、注釈フィールドをクリックして別の値を選択します。注釈がリスト タイプで、[新しい値をオンザフライで追加] オプションが選択されている場合は、既存の値を選択するだけでなく、新しい値を入力することもできます。

注釈ルールを使用して注釈を割り当てる

定義した基準に基づいてアセットに注釈を自動的に割り当てるには、注釈ルールを構成します。Data Infrastructure Insights は、これらのルールに基づいてアセットに注釈を割り当てます。Data Infrastructure Insightsには 2 つのデフォルトの注釈ルールも用意されており、ニーズに合わせて変更したり、使用しない場合は削除したりできます。

アノテーション ルールの作成

個々のアセットに手動で注釈を適用する代わりに、注釈ルールを使用して複数のアセットに注釈を自動的に適用できます。Insight が注釈ルールを評価する際、個々のアセット ページに手動で設定された注釈は、ルールベースの注釈よりも優先されます。

開始する前に

注釈ルールのクエリを作成しておく必要があります。

タスク概要

ルールの作成中に注釈タイプを編集できますが、事前にタイプを定義しておく必要があります。

手順

1. *管理 > 注釈ルール*をクリックします

「注釈ルール」ページには、既存の注釈ルールのリストが表示されます。

2. *+ 追加*をクリックします。

3. 次の手順を実行します。

- a. 名前 ボックスに、ルールを説明する一意の名前を入力します。

この名前は「注釈ルール」ページに表示されます。

- b. *クエリ*をクリックし、アセットに注釈を適用するために使用するクエリを選択します。
- c. *注釈*をクリックし、適用する注釈を選択します。
- d. *値*をクリックし、注釈の値を選択します。

たとえば、注釈として「誕生日」を選択した場合は、値に日付を指定します。

- e. *保存*をクリックします

- f. すべてのルールをすぐに実行する場合は、[すべてのルールを実行] をクリックします。それ以外の場合は、ルールは定期的にスケジュールされた間隔で実行されます。

アノテーション ルールの作成

注釈ルールを使用すると、定義した基準に基づいて複数のアセットに注釈を自動的に適用できます。Data Infrastructure Insights は、これらのルールに基づいてアセットに注釈を割り当てます。Cloud Insight が注釈ルールを評価する際、個々のアセット ページに手動で設定された注釈は、ルールベースの注釈よりも優先されます。

開始する前に

注釈ルールのクエリを作成しておく必要があります。

手順

1. Data Infrastructure Insights サイト メニューで、管理 > 注釈ルール をクリックします。
2. 新しい注釈ルールを追加するには、[+ ルール] をクリックします。

「ルールの追加」ダイアログが表示されます。

3. 次の手順を実行します。

- a. 名前 ボックスに、ルールを説明する一意の名前を入力します。

名前は「注釈ルール」ページに表示されます。

- b. *クエリ*をクリックし、注釈が適用される資産を識別するためにData Infrastructure Insightsが使用するクエリを選択します。

c. *注釈*をクリックし、適用する注釈を選択します。

d. *値*をクリックし、注釈の値を選択します。

たとえば、注釈として「誕生日」を選択した場合は、値に日付を指定します。

e. *保存*をクリックします

f. すべてのルールをすぐに実行する場合は、[すべてのルールを実行] をクリックします。それ以外の場合は、ルールは定期的にスケジュールされた間隔で実行されます。



大規模なData Infrastructure Insights環境では、注釈ルールの実行が完了するまでに時間がかかることがあります。これは、インデクサーが最初に実行され、ルールを実行する前に完了する必要があるためです。インデクサーにより、Data Infrastructure Insightsはデータ内の新規または更新されたオブジェクトやカウンターを検索したりフィルター処理したりできるようになります。ルール エンジン、インデクサーが更新を完了するまで待機してから、ルールを適用します。

注釈ルールの変更

注釈ルールを変更して、ルールの名前、注釈、注釈の値、またはルールに関連付けられたクエリを変更できます。

手順

1. Data Infrastructure Insightsメニューで、管理 > 注釈ルール をクリックします。

「注釈ルール」 ページには、既存の注釈ルールのリストが表示されます。

2. 変更する注釈ルールを見つけます。

フィルター ボックスに値を入力して注釈ルールをフィルターしたり、ページ番号をクリックしてページごとに注釈ルールを参照したりできます。

3. 変更するルールのメニューアイコンをクリックします。

4. *編集*をクリック

ルールの編集ダイアログが表示されます。

5. 注釈ルールの名前、注釈、値、またはクエリを変更します。

ルールの順序の変更

注釈ルールは、ルール リストの上から下に向かって処理されます。ルールが処理される順序を変更するには、次の手順を実行します。

手順

1. 移動するルールのメニューアイコンをクリックします。

2. ルールが目的の場所に表示されるまで、必要に応じて 上へ移動 または 下へ移動 をクリックします。

アセット上の同じ注釈を更新する複数のルールを実行する場合、最初のルール (上から下に実行) が注釈を適用してアセットを更新し、次に 2 番目のルールが適用されますが、前のルールによって既に設定されている

注釈は変更されないことに注意してください。

アノテーション ルールの削除

使用されなくなった注釈ルールを削除する必要がある場合があります。

手順

1. Data Infrastructure Insightsメニューで、管理 > 注釈ルール をクリックします。

「注釈ルール」ページには、既存の注釈ルールのリストが表示されます。

2. 削除する注釈ルールを見つけます。

フィルター ボックスに値を入力して注釈ルールをフィルターしたり、ページ番号をクリックしてページごとに注釈ルールを参照したりできます。

3. 削除するルールのメニューアイコンをクリックします。
4. *削除*をクリックします

ルールを削除するかどうかを確認する確認メッセージが表示されます。

5. [OK]をクリックします

注釈のインポート

Data Infrastructure Insights には、CSV ファイルから注釈またはアプリケーションをインポートし、指定したオブジェクトに割り当てるための API が含まれています。



Data Infrastructure Insights API は、* Data Infrastructure Insights Premium Edition* で利用できます。

インポート

管理 > **API**アクセス*リンクには["ドキュメント"](#)**Assets/Import** API 用。このドキュメントには、.CSV ファイル形式に関する情報が含まれています。

ASSETS.import

PUT /assets/import Import assets from a CSV file.

Import annotations and applications from the given CSV file. The format of the CSV file is following:

```
Project]
, <Annotation Type> [, <Annotation Type> ...] [, Application] [, Tenant] [, Line_Of_Business] [, Business_Unit] [,
<Object Type Value 1>, <Object Name or Key 1>, <Annotation Value> [, <Annotation Value> ...] [, <Application>] [, <Tenant>] [, <Line_Of_Business>] [, <Business_Unit>] [,
<Project>]
<Object Type Value 2>, <Object Name or Key 2>, <Annotation Value> [, <Annotation Value> ...] [, <Application>] [, <Tenant>] [, <Line_Of_Business>] [, <Business_Unit>] [,
<Project>]
<Object Type Value 3>, <Object Name or Key 3>, <Annotation Value> [, <Annotation Value> ...] [, <Application>] [, <Tenant>] [, <Line_Of_Business>] [, <Business_Unit>] [,
<Project>]
...
<Object Type Value N>, <Object Name or Key N>, <Annotation Value> [, <Annotation Value> ...] [, <Application>] [, <Tenant>] [, <Line_Of_Business>] [, <Business_Unit>] [,
<Project>]
```

.CSVファイル形式

CSV ファイルの一般的な形式は次のとおりです。ファイルの最初の行はインポート フィールドを定義し、フィールドの順序を指定します。その後に、注釈またはアプリケーションごとに個別の行が続きます。すべてのフィールドを定義する必要はありません。ただし、後続の注釈行は定義行と同じ順序に従う必要があります。

```
[Object Type] , [Object Name or ID] , Annotation Type [, Annotation Type, ...] [, Application] [, Tenant] [, Line_Of_Business] [, Business_Unit] [, Project]
```

.CSV ファイルの例については、API ドキュメントを参照してください。

API Swagger 自体から .CSV ファイルから注釈をインポートして割り当てることができます。使用するファイルを選択して、[実行] ボタンをクリックするだけです。

The screenshot shows the 'Parameters' tab of an API Swagger interface. It includes a 'Request body' section with a dropdown menu set to 'multipart/form-data'. Below this is a 'CSV file to import' section with a 'data' field of type 'string(\$binary)' and a 'Choose File' button. At the bottom of this section are 'Execute' and 'Clear' buttons. The 'Responses' tab is visible at the very bottom.

インポート動作

インポート操作中、インポートされるオブジェクトとオブジェクト タイプに応じて、データが追加、結合、または置換されます。インポート中は、次の動作に注意してください。

- ターゲット システムに同じ名前の注釈またはアプリケーションが存在しない場合は、注釈またはアプリケーションを追加します。
- 注釈タイプがリストであり、ターゲット システムに同じ名前の注釈が存在する場合は、注釈をマージします。
- 注釈タイプがリスト以外で、ターゲット システムに同じ名前の注釈が存在する場合は、注釈を置き換えます。

注意: ターゲット システムに同じ名前だがタイプが異なる注釈が存在する場合、インポートは失敗します。オブジェクトが失敗した注釈に依存している場合、それらのオブジェクトには不正確な情報や不要な情報が表示される可能性があります。インポート操作が完了したら、すべての注釈の依存関係を確認する必要があります。

- 注釈の値が空の場合、その注釈はオブジェクトから削除されます。継承された注釈は影響を受けません。
- 日付型の注釈値は、ミリ秒単位の Unix 時間として渡す必要があります。
- ボリュームまたは内部ボリュームに注釈を付ける場合、オブジェクト名は「->」区切り文字を使用したス

ストレージ名とボリューム名の組み合わせになります。例: <ストレージ名>-><ボリューム名>

- オブジェクト名にコンマが含まれている場合は、名前全体を二重引用符で囲む必要があります。例:
"NetApp1,NetApp2"->023F
- ストレージ、スイッチ、ポートに注釈を添付する場合、「アプリケーション」列は無視されます。
- テナント、Line_Of_Business、Business_Unit、および/またはプロジェクトによってビジネス エンティティが構成されます。すべてのビジネス エンティティと同様に、いずれかの値が空になる場合があります。

次のオブジェクト タイプに注釈を付けることができます。

| オブジェクトタイプ | 名前またはキー |
|-----------|---|
| ホスト | id-><id> または <名前> または <IP> |
| VM | id-><id> または <名前> |
| ストレージプール | id-><id> または <ストレージ名>-><ストレージプール名> |
| 内部ボリューム | id-><id> または <ストレージ名>-><内部ボリューム名> |
| Volume | id-><id> または <ストレージ名>-><ボリューム名> |
| ストレージ | id-><id> または <名前> または <IP> |
| スイッチ | id-><id> または <名前> または <IP> |
| ポート | id-><id> または <WWN> |
| qtree | id-><id> または <ストレージ名>-><内部ボリューム名>-><Qtree 名> |
| 共有 | id-><id> または <ストレージ名>-><内部ボリューム名>-><共有名>-><プロトコル>[-><Qtree 名 (デフォルトの Qtree の場合はオプション)>] |

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。